

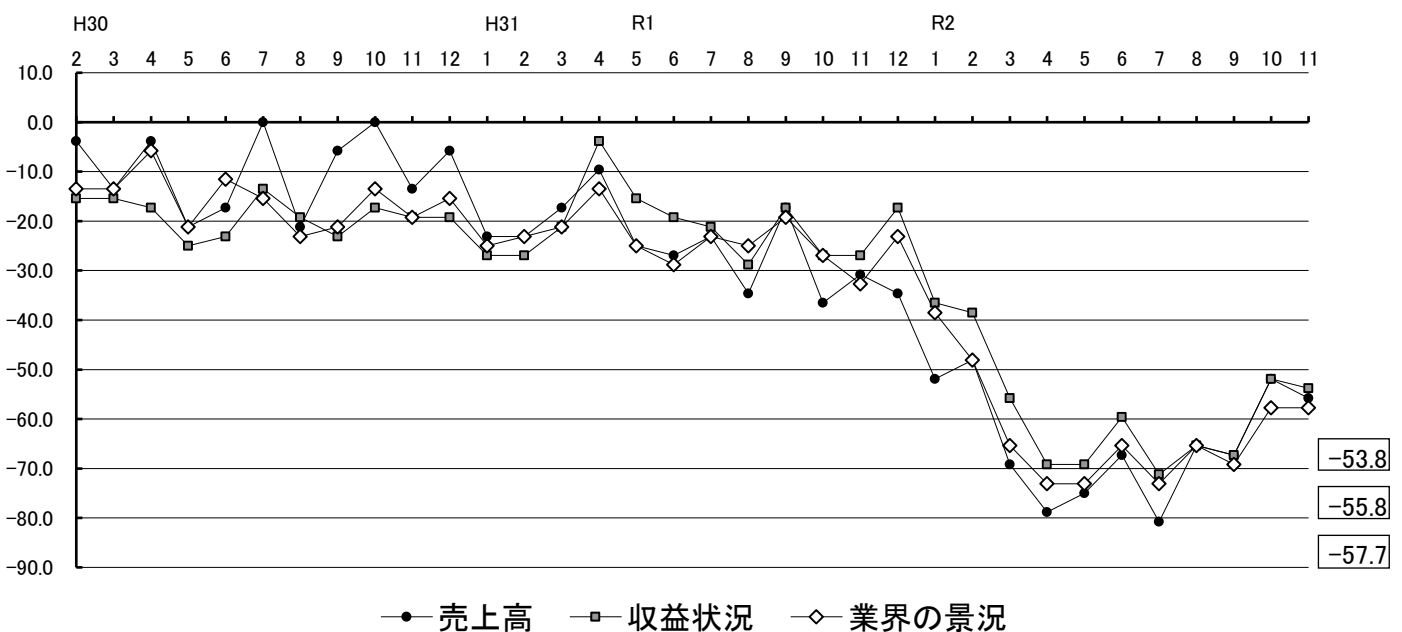
中小企業団体情報連絡員報告結果(令和2年11月分)

栃木県中小企業団体中央会

この報告結果は、栃木県中央会において設置している中小企業団体情報連絡員(中小企業組合(協同組合、商工組合等)の役職員52名に委嘱)による、所属組合の組合員企業の全体的な景況です。

- 主要3指標は「売上高」「収益状況」が下降、「業界の景況」は同値。先月までの上昇への期待もここでストップとなった。
- 「繊維」「印刷」は主要3指標が-100ポイント。その他の業種においても苦しい状況が続いている。
- 一時的に好転の兆しが見られたが、コロナ第3波を受け、先行きの不透明感が一層強まっている。

県内主要3指標の推移(前年同月比DI値)



主要3項目	県内		全国	
	DI値	前月比	DI値	前月比
売上高	-55.8	-3.9	-49.1	-4.7
収益状況	-53.8	-1.9	-49.7	-1.7
業界の景況	-57.7	0.0	-54.4	-0.5

売上高

当月の県内売上高 DI 値は、前月より-3.9ポイント下降し、-55.8ポイントとなった。全国においては、前月より4.7ポイント下降し、-49.1ポイントとなった。

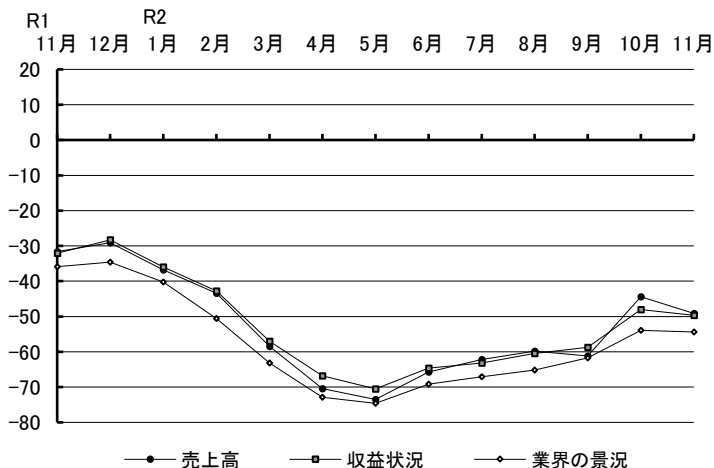
収益状況

当月の県内収益状況 DI 値は、前月より-1.9ポイント下降し、-53.8ポイントとなった。全国においては、前月より1.7ポイント下降し、-49.7ポイントとなった。

業界の景況

当月の県内業界の景況 DI 値は、前月と同値で、-57.7ポイントとなった。全国においては、前月より0.5ポイント下降し、-54.4ポイントとなった。

全国集計結果の推移



-概 況-

11月の前年同月比DI値は、前月と比べ9指標中2指標が上昇し、2指標が同値、5指標が下降した。主要3指標は「売上高」が3.9ポイント下降、「収益状況」が1.9ポイント下降、「業界の景況」が前月同値となり、10月までの上昇への期待の動きもここで一旦ストップとなった。

業種別・指標別にみると、図表1のとおり、「繊維・同製品」「印刷」は主要3指標において前月に続き-100ポイントを示している。また「一般機器」も「売上高」「収益状況」が-100ポイントとなり低水準となっている。非製造業では、-100ポイントを示す指標はほとんど見られないが、前月から主要3指標全てが下降しており回復に遅れがでている。特に「卸売業」「小売業」で数値の下降が目立ち、「運輸業」も「売上高」「収益状況」は前月より上昇がみられたものの、「業界の景況」は-100ポイントのままである。

11月前半は客足の増加やG o T oキャンペーン等の施策の効果により、一時的に回復した業種もみられた。来春夏向けの発注が出始めたことで、年末年始に向けた好転も期待されたが、新型コロナ感染者数増加に伴い第3波の到来が顕著になり始めたことで、再び先行きの不透明感が高まったといえる。多くの事業者が、ギリギリの状況で何とかこのコロナ禍を凌いできたが、再び経済活動が自粛の方向に向かえば、雇用の維持や事業の継続自体が危うくなってくる可能性もあり、年末に向け更なる支援策の必要性を訴える声も多い。

図表1 【業種別・指標別DI値一覧表】

	売上	在庫	価格	条件	収益	資金	設備	雇用	景況
食料品製造	-75.0	25.0	0.0	-25.0	-75.0	-25.0	-25.0	0.0	-50.0
繊維・同製品	-100.0	-75.0	-50.0	-75.0	-100.0	-75.0	-100.0	-75.0	-100.0
木材・木製品	-50.0	-25.0	-25.0	0.0	-50.0	0.0	-25.0	-50.0	-75.0
印刷	-100.0	-100.0	-100.0	0.0	-100.0	0.0	-100.0	0.0	-100.0
窯業・土石	-25.0	-25.0	25.0	0.0	25.0	-25.0	-25.0	-25.0	0.0
鉄鋼・金属	-25.0	-50.0	0.0	0.0	-50.0	-25.0	-50.0	-25.0	-50.0
一般機器	-100.0	0.0	0.0	0.0	-100.0	-50.0	-50.0	0.0	-75.0
製造業	-64.0	-28.0	-12.0	-16.0	-60.0	-32.0	-48.0	-28.0	-60.0
卸売業	-66.7	-33.3	0.0	-33.3	-66.7	0.0		0.0	-66.7
小売業	-57.1	0.0	-14.3	-28.6	-57.1	-28.6		14.3	-42.9
サービス業	-33.3		-16.7	-33.3	-33.3	-16.7		0.0	-66.7
建設業	-20.0		-20.0	-20.0	-20.0	0.0		0.0	-20.0
運輸業	-75.0		0.0	0.0	-75.0	-50.0		0.0	-100.0
その他	-50.0		0.0	0.0	-50.0	-50.0		0.0	-50.0
非製造業	-48.1	-10.0	-11.1	-22.2	-48.1	-22.2		3.7	-55.6
全体	-55.8	-22.9	-11.5	-19.2	-53.8	-26.9	-48.0	-11.5	-57.7

図表2 【指標別DI値の推移】

	元年 11月	12月	2年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	前月比
売上高	-30.8	-34.6	-51.9	-48.1	-69.2	-78.8	-75.0	-67.3	-80.8	-65.4	-67.3	-51.9	-55.8	-3.9
在庫数量	-14.3	-8.6	-5.7	-14.3	-5.7	-22.9	-5.7	-22.9	-17.1	-17.1	-20.0	-22.9	-22.9	0.0
販売価格	3.8	3.8	-3.8	-3.8	-11.5	-7.7	-15.4	-13.5	-7.7	-7.7	-5.8	-7.7	-11.5	-3.8
取引条件	-11.5	-9.6	-11.5	-11.5	-15.4	-23.1	-26.9	-19.2	-15.4	-21.2	-23.1	-21.2	-19.2	2.0
収益状況	-26.9	-17.3	-36.5	-38.5	-55.8	-69.2	-69.2	-59.6	-71.2	-65.4	-67.3	-51.9	-53.8	-1.9
資金繰り	-13.5	-13.5	-19.2	-17.3	-38.5	-53.8	-55.8	-51.9	-51.9	-48.1	-42.3	-28.8	-26.9	1.9
設備操業度	-8.0	-12.0	-24.0	-24.0	-28.0	-64.0	-72.0	-56.0	-68.0	-56.0	-52.0	-40.0	-48.0	-8.0
雇用人員	-7.7	-5.8	-5.8	-1.9	-3.8	-11.5	-11.5	-19.2	-15.4	-9.6	-15.4	-9.6	-11.5	-1.9
業界の景況	-32.7	-23.1	-38.5	-48.1	-65.4	-73.1	-73.1	-65.4	-73.1	-65.4	-69.2	-57.7	-57.7	0.0

特記事項

情報連絡員報告（令和2年11月分）

所属組合	特記事項
和洋菓子製造業	G o T o 関係で観光地等人の出が多くなってきたが、第3波での規制で厳しくなってきた。特に年末年始に期待していただけに今後が心配である。
あん類製造業	新型コロナウイルスの状況下でも、少し持ち直した感がある。しかし、G o T o に左右されるところが大きいようで年内の様子は良くなれないと思う。
縫製業	仕事量が減少し11月末頃で30%位しか稼動しない事業所が多く、先行きが見通せない状況である。
外衣・シャツ製造業	全国的に祭事関係が中止のため、先が見えない。
染色整理業	永く続く消費の低迷に春以降の新型コロナウイルスによる大幅な経済環境の変化・悪化に伴い、大変な状況にある。組合ではどうにもならない。
網・網・レース・繊維粗製品製造業	来春夏向けの発注が出始めたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けているせいか、かなり控えめである。11月末に組合で都内展示会に出展したが、出展者、来場者共に例年よりも少なく、未だに見通しは暗い。
一般製材業	業界全体の景況感は好転の兆しがあったが、新型コロナウイルス第3波より先が読めない状況にある。
家具・建具製造業	一部に業況回復が見られる事業所もあるが、総じて厳しい状況が続いている。年度末を控え今後受注が活性化するものと思われるが、オリンピック開催ともなれば都市部の住宅等工事現場は一時的に停滞するため、次年度第1四半期の売上は激減するとの観測もあり、今後の見通しは益々不透明となっている。
建具製造業	引き続きコロナ禍の影響は大きく、本来11月は繁忙期であるが操業度の上がっている組合員は一部に留まっている。
印刷業	コロナ禍で印刷を取り巻く環境も一層大きく変わってしまった。多様な価値観で評価される今、効果的な印刷物をきちんと見極める力を持つことが必要と考えられる。
石灰製造業	鉄鋼向けは、相変わらず減産傾向であるが、昨年との比較では昨年並みであった。肥料関係は、例年並みの出荷となった。建材関係は、まずまずの出荷となった。全体では、昨年出荷数量と比較するとほぼ昨年並みの状況である。
金属製品製造業	自動車部品関連・機械設備関連・プレス金型関連いずれも新型コロナの影響を受けており、売上低下、人件費増加、人手不足の状況が続いている。
一般機械器具製造業	今月も売上高等の減少により収益状況悪化が継続中である。組合員企業にも格差はあり、一時的に回復の兆しがみられるが今後の操業度低下等による収益状況悪化の懸念もある。今後の動向に注視しつつ国家の政策に期待。各組合員企業の適切な対応を見守りたい。
一般機械器具製造業	10月以降、売上高の減少幅が縮小してきたものの、再び新型コロナウイルスの感染拡大が全国的に広がり、取引先からの生産体制の見直し等による受注の減少が懸念される。
一般機械器具製造業	新型コロナウイルスに対しての不安が依然解消されない状況である。
各種商品卸売業	引き続き新型コロナウイルスの影響を受けており、全体として売上高減少、業況悪化と厳しい状況は続いている。会館会議室等の利用件数は前年並みに回復してきたが、今後新型コロナウイルスの第3波による影響が懸念される。

食肉小売業	G o T o キャンペーンの経済効果があり、又紅葉客の増加が重なり、観光客が多かった。オーストラリア・アメリカにおける新型コロナウイルスの影響で、食品市場の休業が多く、輸入量が少なく、仕入価格が上昇した。
中古自動車小売業	11月中旬より動きが悪くなってきた。
各種商品小売業	11月も前月に続き大変厳しい期であった。G o T o 関連も一段落の気配もあり、物販関連はもとよりクーポンの取り扱いも少なくなり飲食店も15%~25%のダウンとも聞いている。更なる経済支援が必要となってきた。
各種商品小売業	恐らく全国的に同じ様な傾向であると思うが、先月からの流れで中旬頃までは、前年水準まで回復した。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染者数が増えるにつれて、明らかに客足が減っていつてしまった。従来の販促ではどうにもならない。新しい売り方を確立する以外ないであろう。
花・植木小売業	市場の入荷量は前年並みだが業務需要を中心とした菊類、バラ、トルコキキョウ等の入荷が少なく、相場は前年比10%程度の単価高で推移した。11月は気候が安定していて祝日も多く、また今年のいい夫婦の日は大安・日曜日ということもあり、本来であれば結婚式を挙げるカップルが多くいたはずだが、コロナ禍で二度目の延期やキャンセルをするカップルが増えてきている。小売の動きも前月と同様に鈍く、仕入単価の上昇、販売不振と厳しい状況が続いている。
理容業	来客数が激変し、やむを得ず高齢者の組合員は、廃業とする店舗も何件か出ている。依然として、新型コロナウイルスの影響で深刻な状況にいる組合員は多数いると思われる。
自動車整備業	売上高の減少幅が大きい。1台当たりの売上単価の減少が要因として挙げられる。
旅館・ホテル	新型コロナウイルス感染拡大により、宿泊は前年対比70%まで戻ってきたが、アベレージは1,000円以上下がったままである。G o T o トラベルの恩恵については、都市部のホテルはビジネス需要が戻らなければ厳しい状況である。宴会は80%ダウン。飲食店は20%ダウン。11月半ばより感染拡大しており、12月の忘年会需要がまったく見通せない。
ビルメンテナンス業	前月に続き、新型コロナウイルス感染対策を目的とするエアコン洗浄等の特別清掃の受注が増えている。宅配関連の物流業務の業務量も増えている。
給食センター	売上高は、新型コロナウイルスの影響で、依然として昨年度より減少であるが、新規事業を開始したため、今月は少し回復した。雇用の確保、事業の継続をするためのキャッシュフローは、国・県の制度融資でなんとかなっているが、新型コロナウイルスが終息せず、このまま続けば収益・資金も危うい。
内装工事業	新型コロナウイルスの影響により大方の企業の業況は対前年に比べ悪化している。前年並みの業況に戻るには当分時間を要するものと思料される。
貨物軽自動車運送業	問い合わせの件数が、コロナ禍ではあるが少しずつ戻ってきている状況。新規加入説明会の問い合わせも、それなりの数がきている。しかしながら、簡単にできるだろうくらいの軽い気持ちの方が多く、加入には中々つながらない現状である。このような厳しい状況下で、既存の組合員を守りながら、新規組合員を確保することは難しいが、全集中で精進する所存である。
一般乗用旅客自動車運送業	10月は、前年対比で60%近く売上も戻りつつあったが、11月に入り新型コロナウイルス感染者が1ヶ月あまりで100人増となり、それに伴い景気も冷え込み、今後の感染者数の更なる増加が大変危惧されるどころだ。
大谷石採石業	観光客は戻りつつあるが、新型コロナウイルスの第3波でどうなるか不安視している状況である。